

宜 基 渉 第 22 号
平成 29 年 6 月 12 日

外務省沖縄担当大使
川田 司 殿

宜野湾市長 佐喜眞 淳

米軍機の予防着陸及び夜間騒音について（抗議・要請）

6月10日、沖縄防衛局より普天間飛行場所属のMV-22オスプレイが奄美空港に予防着陸したとの報告を受けました。

普天間飛行場所属の米軍機の予防着陸については、6月1日、6日の事案に続いて今月に入り3件目であり、MV-22オスプレイに限れば、わずか5日間で2回も同様な事案が続いていることとなります。

市街地のど真ん中に普天間飛行場を抱える宜野湾市民は、常に事故の危険と隣り合わせであり、不安を抱えながら生活を送っております。それ故、本市は事案が発生するたびに改善を強く要請しているにもかかわらず、このような事案が続く現状は、米軍の整備体制など安全管理への取り組みに疑問を持たざるを得ず、大変遺憾であります。

加えて、米軍機による騒音も市民生活に深刻な影響をおよぼしており、夜間騒音発生回数、苦情件数ともに昨年度と比較して増加傾向にあるなど、市民は二重三重の負担を負っております。

つきましては、9万8千名余の市民の生命・財産を預かる宜野湾市長として抗議するとともに、下記事項を強く要請いたします。

記

- ・ 今回を含む米軍機の予防着陸について、徹底した原因究明と再発防止を行い、市民の不安が払拭できるよう丁寧な説明を実施し、迅速かつ詳細な情報を伝達する体制の構築を米側に申し入れること。
- ・ 「普天間飛行場における航空機騒音規制措置」を厳格に遵守し、夜10時以降の飛行及び地上での活動は実施せず、それ以外の時間帯においても市民生活への配慮を徹底するよう米側へ申し入れること。
- ・ 問題の抜本的解決に向け、市民の強い願いである普天間飛行場の一日も早い閉鎖・返還と、5年以内運用停止をはじめとする危険性除去及び基地負担軽減を早急に実現すること。